

9月のテーマ：秋の行楽シーズン！リサイクルのその先を知ろう！

秋の行楽シーズンが近づき、外出先で飲み物を買う機会も増える9月。飲み終わったペットボトルや空き缶を捨てる時、「この後どうなるんだろう？」と考えたことはありませんか？

実は、正しく分別された資源は、ごみとして処分されるのではなく、リサイクルされて新しい製品へと生まれ変わっています。今回は、私たちの身近にある「ペットボトル」を例に、リサイクルのその先を見てみましょう！

ペットボトルが生まれ変わる5つのステップ

ペットボトルは、捨てたら終わりではありません。次のような流れで「次の製品」へとつながっていきます。



「ごみ」ではなく「資源」！生まれ変わるアイテムたち

ペットボトル以外にも、私たちが分別している資源はさまざまなカタチで活躍しています。

分別するもの	生まれ変わるものの例
アルミ・スチール缶	新しいアルミ・スチール缶・自動車部品・家電など
古紙	新聞・ダンボール・トイレトペーパーなど
ガラスびん	新しいガラスびん・道路の反射材（ガラスビーズ）・建築土木資材など

●今日からできる、小さなアクション

リサイクルのために、難しいことをする必要はありません。まずは毎日のごみ出しで「これはごみ？ それとも資源？」と意識してみましょう。

- ・資源物を「燃やせるごみ」に混せない。
- ・ペットボトルは「すすぐ・外す（キャップとラベル）」を徹底する。
- ・まだ使えるものは、できるだけ長く大切に使う。

私たちの小さな「分別」の積み重ねが、次の新しい製品につながっています。**9月は、リサイクルの「その先」を意識して、正しい分別に取り組んでみませんか？**